

緊急事態宣言が延長されて・・・

～今だからこそ、私たちがしなければならないことは何か？～

令和3年9月13日（月曜日）

2019年11月末、「中国で新型のウイルス感染症が流行っているみたいだ」という話を耳にしました。その時は、「そうなんだ～」程度の捉え方でした。2020年1月、「中国の武漢市から帰国された方が新型コロナウイルスに感染していた」という、日本で第一例目の感染報告がありました。私はその時点でも、「多くの感染者が報告されている中国は大変だな～」といった、対岸の火事といったような認識で、現在のような状況になるということは、全く想像もしていませんでした。

しかし、その約2ヶ月後の3月、全国の学校が「休校」となりました。正に晴天の霹靂でした。ご存じの通り、多くの著名人が亡くなられたということもあり、皆さんも、このウイルスに感染することの恐ろしさをひしひしと感じられたのではないのでしょうか。

日本では9月8日（水曜日）時点で、累計約160万人が感染し、そのうち、およそ1%にあたる1万6千人の方が亡くなっています。

現在に至るまでに、千葉県を含む日本各地で「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が幾度となく発令されました。

学校は「休校」が解除された後も、「分散登校」「時差登校」「オンライン授業」等々、これまでには考えられなかった対応が、全国の学校で行われています。鎌ヶ谷市でも、「オンライン授業」に向けた準備が進められています。

当初は、「ワクチンが開発されれば、終息していく（通常の生活に戻れる）であろう」と考えられていましたが、その後、新たな変異ウイルスが発見されるなど、私たちの心配はまだまだ尽きることはありません。

各放送局が行った街角でのインタビューがニュースで放映される毎日です。

「またか～」「同じことを何度やっても、何も変わらない」という、諦めとも感じられる声が異口同音に聞かれます。また、ここ数日では、感染者数が減少してきたということで、「ピークアウトではないか？」という声を聞くようにもなりました。しかし、医療現場は依然として逼迫した状況であり、そのような感覚とは大きなずれがあることも事実です。

今だからこそ、私たちがしなければならないことは何なのでしょう。

緊急事態宣言の期間が今月末まで延長されましたが、様々な業種に関わる方々のダメージは計り知れません。ワクチン接種率が上がってきているということで、飲食をはじめとする規制が徐々に緩和されそうですが、ワクチンを接種した方の中にも、いわゆるブレークスルー感染がみられるなど、ワクチン接種が、100%の「安全・安心」につながらないということも忘れてはいけません。

国の対応について色々と思う（批判したい）気持ちは十分に理解できますが、それだけでは、この状況はなかなか改善されていきません。ましてや、もしも最悪の事態になったとしたら・・・。実際に、1万6千人の方が亡くなっているのですから。

現在、学校では考えられる感染防止に向けた対応策を講じながら、できる限り安全に学校生活を送れるように努めています。しかし、そこには、児童一人一人がストレスを抱えながらも感染防止に努めているとともに、保護者や地域の皆様のご理解とご協力、そして関係者の方々の多大なるご尽力があるからこそ、今日まで何とかやって来られているという背景があることは言うまでもありません。ここで改めまして、皆様に心より感謝申し上げます。

残念ながら、今のところは「〇〇を行ってれば感染しない」という対応策はありません。しかし、（いつになるかはわかりませんが）通常の生活を取り戻せるようになるまで、「密にならないようにする」「手指消毒を心がける」「マスクを着用する」といった、（100%の効果は期待できないかもしれませんが）基本的な感染防止対策に努めていくことが重要だと考えています。

色々とお考えもあることと思いますが、自分が、そして、家族をはじめとする自分の周りの人が新型コロナウイルスによって大切な命を失うことにならないように、また、何かが起こってから「〇〇をしておけば良かった・・・」ということにならないように、これからも、お互いに日々の活動に気を付けながら生活していきましょう。